

博多とアジアの映画 141

松 浦 仁

1974(昭和49)年に日本(東京)の映画館で公開された空手(カンフー)映画27本を日本の配給会社別に1974(昭和49)年以降に配給したアジア映画も含めると以下のようになる。

東和4本

①「片腕ドラゴン」(1972、香港)

②「ドラゴン危機一発」(1971、香港)

③「アンジェラ・マオの女活殺拳」(1971、香港)

④「ドラゴン怒りの鉄拳」(1972、香港)

4作品ともゴールデン・ハーベストが1971年から1972年に製作し、東和が1974(昭和49)年に日本に輸入・配給した。「片腕ドラゴン」はジミー・ウォンが監督・脚本・主演した空手映画で1972年に香港で公開された。「ドラゴン危機一発」と「ドラゴン怒りの鉄拳」は、「燃えよドラゴン」より前にゴールデン・ハーベストが製作していたブルース・リー主演作で、「燃えよドラゴン」の公開に合わせてヒットを確信しての全国公開だった。「アンジェラ・マオの女活殺拳」は、「燃えよドラゴン」でブルース・リーの妹役を演じて好評だったアンジェラ・マオ主演の作品で、「燃えよドラゴン」にまつわる話題で観客増をねらった公開だった。

東和(東和商事合資会社)は、1928(昭和3)年に川喜多長政が設立した映画会社で、おもにフランス、ドイツを中心にした欧州の映画を輸入・配給した。個人経営とはいえ日本屈指の映画会社として多くの名作を配給し、また日本映画の海外輸出にも先駆的な役割を果たした。戦後まもない1951(昭和26)年には社名を東和映画株式会社、さらに映画黄金期を迎える1960(昭和35)年には東和株式会社と改称した。70年代には香港映画の配給を手掛け、1974(昭和49)年に上記の香港映画4本を輸入・配給した。

1974(昭和49)年に4本の香港映画「片腕ドラゴン」「ドラゴン危機一発」「アンジェラ・マオの女活殺拳」「ドラゴン怒りの鉄拳」を香港側の配給元ゴールデン・ハーベストから輸入・配給した東和は、翌年に同じくゴールデン・ハーベストが配給元のブルース・リー主演の話題作「猛龍過江」(1972)を「ドラゴン電光石火」という邦題で公開の準備を進め既に販促活動をおこなっていたのだが、急転直下で日本大手の映画会社である東映が輸入・配給し「ドラゴンへの道」という邦題で全国の東映直営館で公開した。

川喜多長政は、このことが一因して〈東和〉というブランドだけでは二プロ

ダクションの印象しかないと海外のプロデューサーが強く持ち始めたことを痛感して、翌年に日本のメジャー映画会社のひとつである東宝に株を半分売却して〈東宝東和〉(東宝東和株式会社)に社名変更した。社名に東宝が入ることと東宝ブランドを売りにしてイメージアップをはかり、全国の東宝直営館での全国拡大上映が可能になり、競合他社に劣らない配給が可能になった。東宝東和は、香港を中心としたアジア映画の輸入・配給にも力を注いだ。1974(昭和49)年以降に東宝東和が福岡の映画館に配給したアジア映画は以下のとおりだった。

○1975(昭和50)年

「ブルース・リーのグリーン・ホーネット」(1973)福岡東宝

○1978(昭和53)年

「死亡遊戯」(1978)シネマ1、2、ニユー大洋、サンハクト映劇

○1979(昭和54)年

「Moo! ミスター・ブー」(1978)スカラ座

「ブルース・リー 電光石火」(1976)シネマ1

「Moo! インベーター作戦」(1976)スカラ座

「Moo! ギャンブル大将」(1974)福岡東宝

○1980 (昭和55)年
 「モンキー・フィスト猿拳」(1979) 福岡東宝
 「バトルクリーク・ブロー」(1980) 福岡東宝
 ○1981 (昭和56)年
 「ヤング・マスター 師弟出馬」(1980) 福岡東宝
 ○1982 (昭和57)年
 「ドラゴンロード」(1982) シネマ1
 「ザ・カンニンング・ロ」(1982) シネマ1
 「新Mr.Boo! アヒルの警備保障」(1981) スカラ座
 「少林寺」(1982) スカラ座
 「キャノンボール」(1981) 福岡グランド
 ○1983 (昭和



58)年
 「キャノンボール2」(1983) シネマ1、2
 ○1984 (昭和59)年
 「プロジェクトA」(1983) シネマ1
 「水滸伝」(1983) スカラ座
 「人蛇大戦蛇」(1982) 福岡東宝
 ○1985 (昭和60)年
 「西太后」(1983) シネマ2
 「プロテクター」(1985) シネマ1
 「ポリスストーリー 香港国際警察」(1985) シネマ1、ニュー大洋
 「新Mr.Boo! 鉄板焼」(1984) 福岡東宝
 ○1986 (昭和61)年
 「阿羅漢」(1986) 福岡東宝
 「霊幻同士」(1985) 福岡東宝
 「サンダーアーム龍兄虎弟」(1986) 福岡東宝、シネマ1
 「霊幻同士」(1986) 福岡東宝
 1973 (昭和48)年、ゴールデン・ハーベストの傘下でブルース・リーが主宰するコンコルド・プロダクション(香港)とワーナー・ブラザース(アメリカ)の合作映画でブルース・リー主演の「燃えよドラゴン」(1973)が、7月にゴールデン・ハーベストが配給して香港で、8月にワーナー・ブラザースが配給してアメリカで公開され、いずれも大ヒットした。そして、日本では同じ年の12

月にワーナー・ブラザースが配給して翌年の正月映画として全国公開された。「燃えよドラゴン」は興行収入16億円で、「エクシスト」(1973、アメリカ)に次ぐ「日本沈没」(1973、日本)とともに興行収入第2位を記録した。

日本の映画配給各社は、こぞって公開前から大ヒット間違いなしのカンフー映画「燃えよドラゴン」に便乗して日本ではまだ公開されてなかったカンフー映画を配給しようとした。1974 (昭和49)年は香港及び台湾の製作を含めて27本ものカンフー映画が公開された。とりわけ戦前から中国で映画の製作・配給を手掛けていた川喜多長政が主宰する東和はアジア特に中国映画の輸入・配給に関心を寄せていて、ブルース・リー主演の「燃えよドラゴン」が日本でも大ヒットすることを予見したうえで、すでに製作され香港で公開されていたブルース・リー主演のカンフー映画の輸入に着手していた。そして、東和は配給元のゴールデン・ハーベストとの交渉で1971 (昭和46)年に香港で公開された「ドラゴン危機一発」(1971)を4月に、1972 (昭和47)年に香港で公開された「ドラゴン怒りの鉄拳」(1972)を7月に輸入・配給した。

次号に続く
 Ⅱ 図版は「片腕ドラゴン」Ⅱ